

# 党内融和の気配見えず

みんなの党の党内対立が激しさを増している。渡辺喜美代表は、野党再編をめぐり路線対立する江田憲司衆院議員を幹事長から更迭。江田氏と共に新党構想も視野に入れる側近議員には離党を迫った。「渡辺純化路線」が進む中、江田氏に近いとされる柴田巧参院議員は野党再編に積極的な考えで、超党派による政策勉強会の発足も主導する。「しりを払拭する」と強調するものの党内融和の気配は見えず、その立ち位置と動向に視線が集まる。

## みんなの党路線対立

2009年8月に結党されたみんなの党は、政界再編を目指し、渡辺氏と江田氏の「トップ」で勢力を拡大してきた。だが、江田氏が渡辺氏の組織運営に異論を唱え、党運営資金の支出や候補公認手続きの明確化など党改革を要求。さらに野党再編の在り方で確執が深刻化した。

柴田氏は、江田氏と同様に「党改革が必要」との認識で、野党再編に積極的な考えも一致。今月上旬の役員人事の際には、その実績・手腕を踏まえて江田氏の幹事長統投を主張した。7日の両院議員総会で江田氏を更迭する人事案が示されると、柴田

氏は再考を求めたが、渡辺氏が党内の慎重・反対意見を押し切る形で決着。柴田氏自身はナンバー4ポストの総務委員長に起用された。

### □党存続と新党結成

両院議員総会后、幹事長の交代について不快感を見せながらも、総務委員長として党内融和を目指す考えを強調した柴田氏。しかし、混乱が収束する兆しは見えない。

### 新執行部となって開かれた20

日の役員会では、渡辺氏が「1強体制」を築いた自民党への対抗策として、新党結成ではなく、党を存続した上で複数政党の連合によって政権奪取を目指す方針をぶち上げた。渡辺氏は「現実的な選択肢」との見解を説明したが、新党結成を視野に入れ

みんなの党役員会で、渡辺氏（左）のあいさつを聞く柴田氏（右）  
20日、東京・永田町の衆院議員会館



23日には江田氏側近で、再編による新党結成も検討する柿沢未途衆院議員が、ついに離党する事態に発展した。柴田氏と共に、民主党や日本維新の会の中堅・若手議員と会合を重ねてきた議員の一人で、渡辺氏から事実上「追放」された形だ。

組織内に亀裂が走る一方、柴田氏は、民主、維新の有志議員と社会保障制度に関する勉強会の発足も主導し、準備を進めている。野党再編を念頭に置いていることを認めた上で、「新党をつくることを決めて勉強会を発足させるわけではない。政策の一致が前提であ

る江田氏周辺には「党存続を優先させている」と映っており、不満を募らせる。

渡辺氏の考えについて、柴田氏も「大きな方向性はこれまでと同じで再編の1つ」と一定理解を示した上で「多党制を目指す」というのは初めて聞いた。違和感も覚える」と漏らし、突然の表明に戸惑いを隠せなかった。

### □3年後の国政選挙

結党以来、国政選挙のたびに着実に勢力を伸ばしてきたみんなの党。参院1期目の柴田氏は、3年後に改選を迎える。前回2010年の参院選では、比例代

表で党内最多の個人票を獲得し、当選を果たした。

だが、今回の混乱が長引けば組織弱体化も否めない。3年後には「衆参ダブル選挙」になるとの予想も出ている。巨大化した自民党の勢いが今のまま持続した場合、野党各党が勢力を結集せずに対抗するのは容易でない。柴田氏も「対抗するには」

野党がなるべく1つになるのが望ましい。だが、民主党のように単なる数合わせでは失敗する」と説明。あくまで政策の一致を軸にして慎重に連携を進める構えだ。

今後の行動が注目される柴田氏。今週中に浅尾慶一郎幹事長と面談予定で、他党との連携や超党派の勉強会などに関する考

## 柴田氏 野党再編に前向き

り、拙速に進める必要はない」と指摘。既に渡辺氏にも勉強会の発足を報告しているという。

え方を聴かれることが予想されるが、「(自分は)党規や方針に違反したり、反党行為をした覚えはない」とし、離党もきっぱり否定。県議時代には自民党を離党し、国政選挙の勝負に挑んできた経歴を持つ52歳は「首を洗って(面談を)待っています」と余裕さえうかがわせる。

(東京支社編集部・室田雅人)

# 柴田氏 執行部方針に同調

## 「認識は一致」



記者団の質問に答える柴田氏  
＝国会内

### みんな・浅尾幹事長が事情聴取

## 離党求めず、勉強会も容認

野党再編に意欲的な民主党、日本維新の会の有志と勉強会設立を検討している、みんなの党の柴田巧参院議員は27日、国会内で浅尾慶一郎幹事長から事情聴取を受けた。柴田氏が党存続を前提とする執行部の「政党ブロック」再編構想に従う姿勢を示したため、浅尾氏は離党を求めず、勉強会についても新党結成を目指すものなら参加を認めるとした。

渡辺喜美代表ら執調会長代理を事実上で柴田氏は、野党再編について「望ましい行部は、新党に前向きに開放するなど党内の追放するなど党内の引き締めを図って長を更迭し、江田氏を側近の柿沢未途前政

約20分間の事情聴取

柴田氏は27日、浅尾幹事長「だわらない考えを強調した。同じく「DRYの会」メンバーからの事情聴取後に富山新聞「さらに、再編には数合わせの柿沢氏が追放されたこと」の取材に応じ「今回の聴取でなく政策の一致や信頼感には「党内でもやり過ぎた」と最後に党内は落ち着きを取、必要だと指摘。「勉強会など」と述べ、執り戻すと思う。秋の臨時国会を通じて、政治勢力として世間執行部の「純化路線」に懸念もに向け、党内が一致するようから信頼できるという雰囲気示した。

### 柴田氏「党内は落ち着く」

2016年夏の改選期まで折

柴田氏は27日、浅尾幹事長「だわらない考えを強調した。同じく「DRYの会」メンバーからの事情聴取後に富山新聞「さらに、再編には数合わせの柿沢氏が追放されたこと」の取材に応じ「今回の聴取でなく政策の一致や信頼感には「党内でもやり過ぎた」と最後に党内は落ち着きを取、必要だと指摘。「勉強会など」と述べ、執り戻すと思う。秋の臨時国会を通じて、政治勢力として世間執行部の「純化路線」に懸念もに向け、党内が一致するようから信頼できるという雰囲気示した。

野党再編に関して柴田氏は「私は執行部が言う『政党ブロック再編論』も再編の一種だ」と述べた。色んなバリエーションがある」と語り、路線対立の末に江田氏が幹事長から更迭され、柴田氏と

柔軟性を持って幅広く考える必要がある」と述べ、「執行部と認識は一致する」とした。浅尾氏は会見で、柴田氏と柿沢氏との違いに「柿沢氏からは「ドライの会」を「単なる飲み会に過ぎない」と説明。勉強会について「新党を目指す準備会ではなく、社会に参加する意向の井坂信彦衆院議員から聴取する。」

# 「野党再編はじっくり」

## みんな 柴田氏 浅尾氏問題視せず

みんなの党の柴田巧参院議員は27日、浅尾慶一郎幹事長と会談し、野党再編に対する考え方などについて聴取を受けた。野党再編に前向きな柴田氏は「拙速にではなく、政治理念や政策の一致を図りながら、じっくり構えて再編を

進めるべき」とし、浅尾氏と認識の一致を確認。民主、日本維新の会、みんな3党の有志による政策勉強会の経緯も説明し「新党結成の準備会ではない」と強調した。

柴田氏が党存続を前提とする執行部方針に従う姿勢を示したため、浅尾氏は離党などは求めず、勉強会も問題視しない意向だ。

みんなの党では、野党連合による政権奪取を目指す渡辺喜美代表が、野党再編をめぐる路線対立する江田憲司前幹事長



浅尾幹事長との会談内容を記者団に説明する柴田氏（東京・永田町の参院議員会館）

を更迭。その側近で新党結成に前向きな柿沢未途衆院議員を事実上追放し、党内の引き締めを図っている。

柴田氏は江田氏に近いとされる。これまで柿沢氏と共に民主、維新の議員らと会合を重ね、社会保障制度に関する勉強会を発足させることから聴取を受けた。

会談は非公開で行われ、終了後に柴田氏が記者団の取材に答えた。再編に関し「政権交代を視野に入れば（野党が）一つになるのが望ましいが、現実には難しい。柔軟性を持って幅広い考えがあったほうが良い」と指摘。3党による社会保障制度に関する勉強会については「党の全員に参加を呼び掛ける。コソコソやる必要はない」と説明し、浅尾氏も理解を示した。

党内の混乱について、柴田氏は「この会談を契機に落ち着きを取り戻していくだろう」とした。